

# STEP-UP

平成29年度 第2号 3月  
大田区立幼児教育センター  
幼児教育担当 TEL(5744)1618

今年度も残りわずかとなり、園児たちは園生活を十分に楽しみ就学を心待ちにしているのではないのでしょうか。その姿は、小学校と幼稚園や保育園との交流会でランドセルを背負う、文字の書き方を教わるなどの1年生体験からも伝わり、1年生は本の読み聞かせやルールのある遊びを一緒にする中で優しく関わる姿もみられています。

今号は4月から施行される新教育要領等について、小学校との接続を考え共通部分が明確化されていることなどを取り上げてみました。

## 【幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領が同時に改訂された趣旨とは何でしょう】

近年、子どもを取り巻く生活状況は著しく変化し、便利な社会の中で、子どもたちに必要な生活体験が不足しており、それを補う幼児教育の役割はますます重要になっています。今回、3法令が同時に改訂された趣旨として、「幼児教育の共通化」、「幼児教育の『質』の方向性」、「幼児教育で育つ力の明確化」の3つの要素が挙げられています。

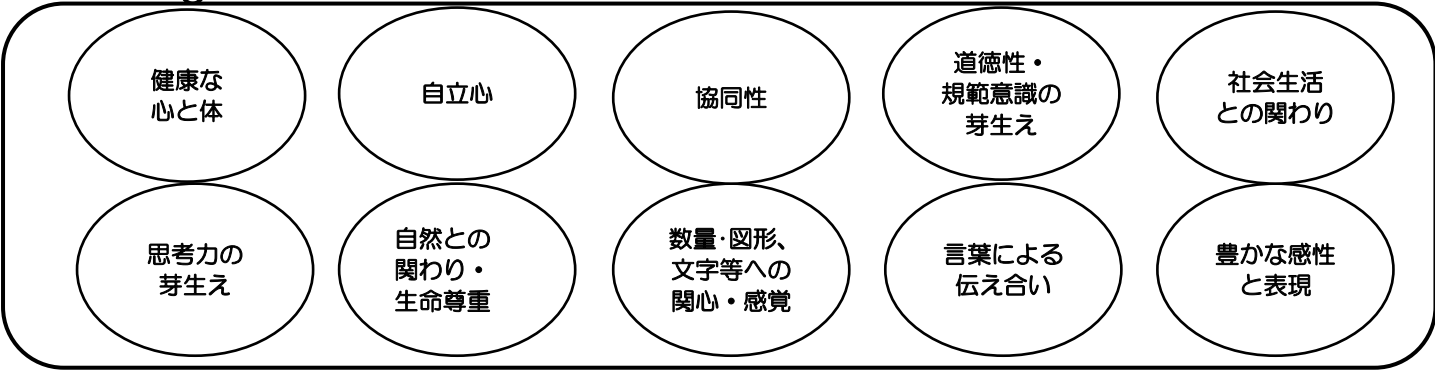
幼児期に身近な環境に主体的に関わり、体験を重ね、遊びが発展し生活が広がる中で、環境との関わり方、その子の関わり方で試行錯誤したり、思い巡らしたりすることがその子の学びにつながっていきます。こうした心がゆり動かされる感動体験を積み重ねていくことが必要です。このような体験が、「非認知的能力」「社会情動的スキル」と表現されています。このことが、学びに向かう意欲、意志、がんばる力、好奇心、協調性、我慢する力となります。

身近な経験から何かを見出したり、試したり、考えたりなど、遊びを通して学んでいけるような環境を整え、教職員全員で取り組んでいくことにより、子どもの育つ力を引き出すことができるのではないのでしょうか。

### 子どもに育てるべき力として捉えた 「具体的な資質・能力の3つの柱」

- |  |  |  |
|--|--|--|
| <p><b>1 知識及び技能の基礎</b><br/>遊びや生活の中で、豊かな体験を通じて、何を感じたり、何に気付いたり、何がわかったり、何ができるようになるのか</p> | <p><b>2 思考力、判断力、表現力等の基礎</b><br/>遊びや生活の中で、気付いたこと、できるようになったことなども使いながら、どう考えたり、試したり、工夫したり、表現したりするか</p> | <p><b>3 学びに向かう力、人間性等</b><br/>心情、意欲、態度が育つ中で、いかによりよい生活を営むか</p> |
|--|--|--|

### 幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿 (文部科学省 幼児教育部会審議のとりまとめ H28より抜粋)



幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿は、5領域(健康・人間関係・環境・言葉・表現)のねらいと内容に基づいて、より具体的に示したものです。「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が、保育園、幼稚園と小学校の間で共有されることにより、幼児教育と小学校教育との接続の一層の強化が期待されています。この姿を手掛かりに、子どもの発達を長期的な視点で捉え、互いの教育内容や指導方法の違いや共通点について理解を深めることが大切になります。10の姿は、子どもの育っていく方向であり到達目標ではないのです。「今こういう姿だね」と肯定的に見て話し合えることが円滑な連携につながるのではないのでしょうか。

## 第4回 幼稚園教諭・保育士合同研修会 (昨年11月に池上会館で行われました。)

田園調布学園大学子ども未来学部教授高嶋景子先生をお迎えして、『遊びを通して共感し、伝え合う仲間作りを目指して』をテーマに行われました。講義の間に“子どもたちの主体的で深い学びを捉えた”いくつかの「遊び」の事例を元に、活発な意見交換やワークが行われました。研修後のアンケートには、『遊び=学び』と考え、子どもの思いに寄り添えるようにしたい。」「主体的に遊ぶ姿(映像)から大切なことを感じた。」「失敗も大事な権利。」「保育環境を考えていきたい。」「『指導の仕方や子どもの理解について』などの考え方を職員で話し合っていく。」「保護者に『遊びの大切さ』を理解してもらえるような発信の仕方を考えていく。」などの感想が出されていました。

今までの保育は、子どもが主体でないことも多かったかもしれない。



子どもたちの小さな興味や関心、イメージしていることを捉えていきたいと思っています。



### 1年生と園児の交流会

多くの小学校の生活科では「園児との交流」が取り上げられました。会を進めるための班活動では、意見を出し合い、進め方や説明の仕方を考えました。交流会後の振り返りでは「新1年生が楽しそうにしていたから、がんばってよかったです。」と充実した感想が聞かれました。園児に伝わるような言葉使いを心がけ、学習で培ってきたことを発揮する姿や1年生と園児の触れ合う楽しそうな姿がうかがえました。

「これはね、国語の教科書よ」園児は1年生になるのが楽しみな様子。



ルールのある遊びを考え「おしくらまんじゅう」を一緒にしました！旗を持って審判もしました！

こんにちは、よろしくおねがいします。



### ☆ 編集後記 ☆

『共に遊び 共に育ち合い 学びに向かう おおたっこ』をスローガンに大田区幼児教育振興プログラム<改訂版>が昨年3月に発行されました。目指す子ども像は、「学力向上(遊びの中で学びと向き合うことを通して)」「豊かな心(他の人々との関わりを通して)」「体力向上(運動遊びを通して)」として挙げられています。また4月から施行される幼稚園教育要領や保育所保育指針等では、保育者に質の高い幼児期の教育・保育の提供が求められています。幼児教育センターでは、小学校教師、幼稚園教諭・保育士そして幼児を持つ親子の研修や相談など充実した発信を続けていきたいと考えています。